

## 札幌市立屯田北小学校の取組【雪に関する教育課程】

### 1 研究のねらい

昨年より引き続き3年目の「雪に関する教育課程」の実践である。本校は、札幌市北部に位置し、日本海側から入り込む偏西風の影響で冬期間の降雪量が多い。しかしながら札幌市西部のスキー場には遠く、ウィンタースポーツを楽しむ児童は少数である。家庭では除雪に追われることも多いことから、雪に対するイメージはよくない。そこで、本校では「雪の動」を教育課程に位置づけ、低学年では生活科「スノーキャンドルイルミネーション」の開催、中学年では総合「冬の防風林探検」の学習、高学年では総合「雪の学習プレゼンテーション」を通して、雪と親しむ機会を設けている。これらの活動を系統的に行っていくことで雪を親しみ楽しむ子どもたちを育てたいと考えている。

### 2 取組内容

#### (1) 1・2年生 生活科「とんきたスノーキャンドル」 ～低学年に位置づくスノーランド～

1年生では生活科「冬を楽しもう」、2年生では「冬をもっと楽しもう」に「雪の学習」を位置付けている。低学年では毎年恒例となり本校の「北っ子ガーデン」で雪像を作る活動を行った。今年度は1、2年生共同でスノーキャンドルづくりを行った。スノーキャンドルは以前に北区土木センターから多数いただいたバケツを使って制作した。幼稚園や保育園の子どもたちとの交流も行っていましたが、今年度は相手先の都合もあり、1、2年生での交流とした。生活科では雪の学習に何度も会場に足を運び、雪と親しむ子どもたちの様子が見られた。



#### (2) 3年生総合「Let's 防風林 冬タイム」 ～年間を通して見つめる防風林活動～

3年生では総合「Let's 防風林タイム」として、冬期間の活動に「雪の学習」を位置付けている。今年度から森林管理署、道森林室と協定を結び、「とんきた夢の森」として、一部の管理を行った。そのため、昨年にも増して防風林での活動が活発化している。冬期はスノーシューを履いて、防風林を散策する活動を行い、見たことと、感じたことを防風林辞典に掲載した。冬期は木にアクセスしやすく、幹の円周を計ったり、根元を掘って雪の下にいる虫や小動物を見付けたりする活動を行うことが出来る。



### (3) 5年生総合「Let's 雪タイム」

#### ～雪を調べて、プレゼンテーション～活動～

5年生では、総合「Let's 雪タイム」として雪について課題をもち、協働的に調査し発表する活動に「雪の学習」を位置付けている。活動は3学期を中心に行い、各学級5～6チーム（5～6人構成）、全17チームがプレゼンテーションを行う。学年末懇談会に日程を合わせ、保護者に向けて発表する。その後、互いに評価をして、上位チームが札幌市雪対策室主催の「雪と暮らすおはなし発表会」に参加した。この活動はすでに8年目を迎え、子どもにも、保護者にも定着した取り組みになっている。

本校では6年間を通して「雪」を様々な角度で見つめ、学ぶカリキュラム・マネジメントを実施し、札幌市の特色ある教育の重点「雪」についてを実践している。

今年度は「雪の結晶の観察」、「スノーキャンドル作成」、「雪室」、「雪の下の生き物探し」、「雪像づくり」などをテーマに取り組み、プレゼンテーションを作成中した。

### (4) 体力向上実践「中休みのミニスキー」

本校では200足以上のプラスチックミニスキーがあり、これを休み時間に自由に利用できるようにしている。スキー山を開放しており、登ったり、滑ったり、転んだりしながら、冬の遊びに親しんでいる。



## 3 成果と課題

### (1) 成果

雪の学習を系統立てて生活科や総合に位置付けて6年目となる。教育課程に位置付けたことで雪に対する視点が低学年では「雪とどう仲良くなるか」、中学年では「雪と自然」、高学年では「雪と地域社会」といったように、雪の見方も、「造形的側面」「環境的側面」「社会的側面」といった多角的・多面的な見方・考え方を育てられている。何より先生たちが「雪の学習の教材化」を意識して行うようになった。

### (2) 課題

雪の学習の実践が、天候、インフルエンザ、渉外関係の理由に左右されることが多く、計画が難しい部分もある。また休み時間などの取り組みも準備に時間がかかり、遊ぶ時間を確保することが難しい課題がある。次年度はカリキュラム・マネジメントを綿密に行い、周辺カリキュラムとして年度当初より計画的に横断的に位置付けることや、準備の時間を考えたタイムマネジメントを行いたい。